独立行政法人
環境再生保全機構
ERCA Environmental Restoration and Conservation Agency

研究成果サマリー

研究課題番号	4-2005
研究課題名	SFTS に代表される人獣共通感染症対策における生態学的アプローチ
研究代表者名（所属）	岡部貴美子（（国研）森林総合研究所）
研究期間	2020年度～2022年度
研究キーワード	野生動物管理、人獣共通感染症、感染症リスク管理

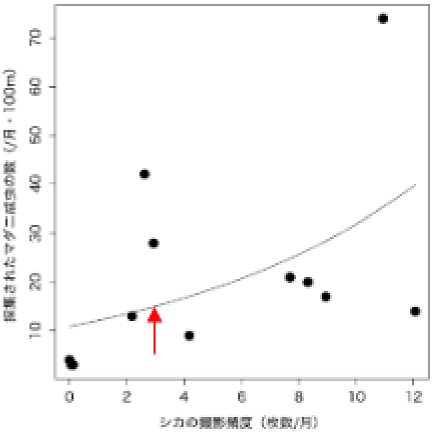
研究概要と成果

「研究の概要」

西日本から感染拡大が広がる重症熱性血小板減少症候群（SFTS)の病原体ウイルスを増幅する野生動物と、ウイルスを媒介するマダニを増やす野生動物を明らかにし、感染症多発地域と発生境界地域のそれぞれで重点的に実施すべき対策を明らかにした。

「研究成果」

１．森林地帯でマダニ密度を増加させる野生動物は、シカ、イノシシなどの大型哺乳類であることを明らかにした（右図）。特にシカの影響は顕著で、中密度（赤色の矢印）以上ではマダニが急激に増加した。



２．SFTSウイルスを増幅する主な野生動物は、アライグマ、ハクシン、タヌキなどの食肉目哺乳類であることを明らかにした。

３．野生動物の抗体陽性率が上昇すると、患者発生が起こっていたことを明らかにした。

４．マダニ密度が高いエリアでは、一時的な植生除去や適切な薬剤散布による密度低下が可能であることを示した。

５．対馬で野生のツシマヤマネコ個体でSFTSの抗体陽性（感染履歴）を確認した。また島内のシカ高被害エリアで、ウイルス媒介上重要なフタトゲチマダニ密度が高いことを明らかにした。

地域の実情に合わせた対策

	里地及び周辺	森林地帯
多発地域の対策	アライグマ、ハクビシンなどのウイルス増幅動物、人を刺すマダニを増やすイノシシなどの密度管理。飼育動物の適性飼育。適切なマダニの薬剤防除、植生管理。地域住民への普及啓発	里山付近での大型哺乳類の低密度管理。森林管理・作業従事者への普及啓発。
境界地域の対策	増幅動物の密度モニタリングと管理。可能であれば、アライグマの抗体陽性検査。飼育動物の適性飼育。行政及び医療関係者への普及啓発。	シカ、イノシシの分布や密度のモニタリングと低密度管理、SFTSウイルス抗体陽性検査。森林管理・作業従事者への普及啓発。

環境政策等への貢献

- SFTS多発地域、発生境界地域といった異なる条件下で重点的に実施すべき野生動物密度管理を明らかにしたことから、感染症の視点による地域の実状と地域内の景観に対応した野生動物管理・対策の優先順位を決定することを可能にした。
- 多発地域で緊急避難的に有効なマダニ対策として、植生管理と薬剤防除法を開発し、野外活動における感染症リスク低減に活用可能にした。
- ネコ科絶滅危惧種保護施設周辺のマダニ対策の重要性を示した。